建築とコラボするアーティスト ～第3回～　　造園業 石川 一司さん

丁寧に手をかけ育む外部空間としての庭や露地

建築の内と外の関係は重要で、特に植栽は建築の成り立ちに深く関わってきます。

「石川翠樹園」さんには植栽の相談にのって頂きますが、状況を話しながら、樹種や場所の設定など決めていく際の気負いないアドバイスは、いつも的確です。

「石川翠樹園」は創業85年になり、一般の庭園はもちろん、日本庭園の設計及び施行、庭園の管理等を行っています。主な庭園の管理は、広島銀行「レゾナンス宮島」、「ひろしま美術館」、表千家「永田邸露地」、中国新聞会長「山本邸」があります。

石川さんは、繊細な感覚やきめ細やかさ持った仕事を続けていきたいと言われています。


最新作　「明教寺」庭園


「ひろしま美術館」中庭



住まいは作り手と住む人とが共に作り上げていくように思います。写真は、施主に温かく育まれて10年を経過。改装を加えてすっかり落ち着いた、「庚午の家」のお庭です。　（広島支部　細見　恵）

株式会社 石川翠樹園　石川一司
〒733-0813 広島市西区己斐中1-8-6
TEL. 082-271-4467、FAX.082-271-7970
E-mail：suijuen.stone@guitar.ocn.ne.jp


表千家「永田邸」の露地―茶道では茶庭を露地と呼びます




「レゾナンス宮島」の犬矢来（室外機カバー）

MONTHLY 建築士 HIROSHIMA　No.98　平成26年12月1日発行
発　行　公益社団法人 広島県建築士会　〒730-0052 広島市中区千田町3丁目7番47号
TEL（082）244-6830（代）　FAX（082）244-3840　URL http://www.k-hiroshima.or.jp/
e-mail：info@k-hiroshima.or.jp
発行人　会　　長　元廣　清志
編集人　広報委員長　神岡　千春

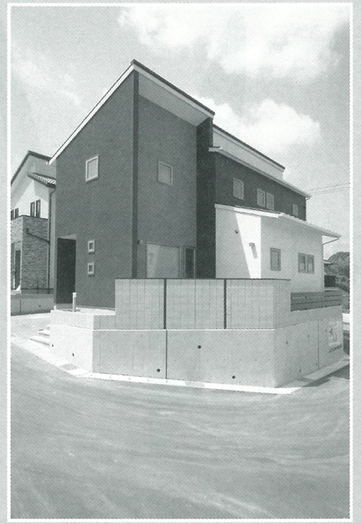
公益社団法人 広島県建築士会
12/2014
MONTHLY No.98 建築士 HIROSHIMA

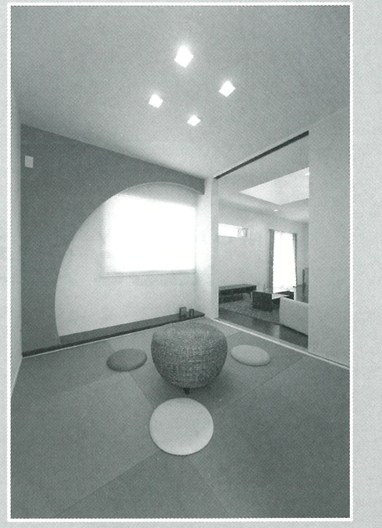


表紙写真について

赤羽根の丘の家

●設計監理／㈱佐藤工務店建築設計事務所
●施　　工／㈱佐藤工務店
●所 在 地／尾道市
●用　　途／専用住宅
●構造規模／木造２階建
●延床面積／115.26㎡
●竣　　工／2014年6月





この住宅は高気密・高断熱により、省エネと快適な生活空間をつくることにこだわった住宅です。基礎に設置した換気システムとエアコン１台で全館の空調を行うことで、「ネット・ゼロエネルギー・ハウス」を目標とし、リビング上部の大きな吹き抜けも全館空調にとって大事なポイントになっています。

ＬＤＫは一体型ですが、構造上はずすことのできない壁をキッチン側部に設けることで、空間の広がりを妨げずにキッチン手元の目隠しとして役立っています。

リビングと続く和室は、赤い曲線の壁が軽快さと遊び心を表しています。仕上げに網代柄や和紙を使用することで和の空間も感じることができるようになっています。

外観は、紺と白のコントラストの効いた外壁に、さらにアクセントとして木調の茶色を使用することでより印象深い仕上がりになっています。住宅地の入り口に建つ家でもあるので、地域のランドマークのような存在になればと思います。

既存建築物の耐震診断・改修計画判定業務を行っています
（既存建築物耐震診断・改修等推進全国ネットワーク委員会加入）

■ 指定確認検査機関
■ 登録建築物調査機関
■ 住宅瑕疵担保責任保険業務
■ 住宅エコポイント関連業務
■ 登録住宅性能評価機関
■ 適合証明業務(フラット35)
■ 調査診断業務(耐震診断等)
■ すまい給付金関連業務
■ 指定構造計算適合性判定機関
■ 長期優良住宅認定審査業務
■ 耐震診断判定業務

URL http://www.jesupport.jp/

皆様に、より良いサービスの提供に努めてまいります

株式会社 ジェイ・イー・サポート
代表取締役　石 山　講

本社　〒730-0029 広島市中区三川町7-1
TEL:082-546-1378　FAX:082-249-7190
e-mail:mail@jesupport.jp
支店:東京　　営業所: 呉

安全で安心な住まいづくりをサポートします。

◆ 建築確認・検査
◆ 住宅性能評価
◆ フラット 35 適合証明
◆ 長期優良住宅技術審査
◆ 低炭素建築物技術審査
◆ 住宅かし担保責任保険
住宅保証機構㈱　（まもりすまい保険）
㈱住宅あんしん保証　（あんしん住宅瑕疵保険）
㈱日本住宅保証検査機構　（JIO わが家の保険）
㈱ハウスジーメン（ハウスジーメン住宅かし保険）
ハウスプラス住宅保証㈱（ハウスプラスすまい保険）

指定確認検査機関・登録住宅性能評価機関
株式会社 広島建築住宅センター
URL:http://www.hkjc.co.jp

本社　〒730-0013　広島市中区八丁堀 15-10
TEL(082)228-2220　FAX(082)228-2231
営業所　〒720-0034　福山市若松町 8-22
TEL(084)928-3979　FAX(084)928-3974

CPD認定プログラム（12月～27年2月の広島県内実施分）

11月13日現在

日　時	プログラム名	単　位	主　催	連絡先
12／ 6	見学会「御手洗・竹原のまち並み巡り 」	4	広島県建築士会広島支部	082-244-6836
12／ 6	中国支部環境工学研究発表会	3	日本建築学会中国支部	082-439-1110(451)
12／ 9	被災建築物応急危険度判定士講習会	3	広島県建築士会	082-244-6830
12／12	呉建築セミナー「リファイニング建築とは」	2	広島県建築士会呉地区支部	0823-25-0230
12／13	鋼構造シンポジウム「鉄骨製作の合理化を図る柱梁接合部について」	2	日本建築学会	082-921-9420
12／13	建築積算実技講習会　前編	6	日本積算協会	03-3453-9591
12／14	建築積算実技講習会　後編	6	日本積算協会	03-3453-9591
12／17	一級/二級/木造建築士定期講習（6D-04）	6	広島県建築士会	082-244-6830
12／18	丸のこ等取扱い従事者教育in福山　第3回	4	建災防広島県支部	082-228-8250
1／21	一級/二級/木造建築士定期講習（6D-05）	6	広島県建築士会	082-244-6830
2／18	一級/二級/木造建築士定期講習（6D-06）	6	広島県建築士会	082-244-6830

ぷろじぇくと PROJECT NEWS ニュース

平成26年度　第24回全国女性建築士連絡協議会開催のお知らせ

社会活動委員会　女性部会

メインテーマ　『未来へつなぐ居住環境づくり
～大切にしたい暮らし方～』

今まで継続されている「地域と共生」を議論の切り口に、あらためて防災やボランティア活動の取り組みを軸に加え、女性委員会の主要テーマである建築物の再生活用、高齢社会や子どもと住環境等のテーマについて協議します。

■平成27年2月27日（金）
（公社）日本建築学会「建築会館ホール」
＊開会式、基調講演、事業報告、活動発表
被災地における現状報告と取り組み

■平成27年2月28日（土）
「建築会館会議室」「東京機械本社会議室」他
＊分科会・全体会

参加費：2,000円（交通費・宿泊費は個人負担）

平成27年度　青年・女性建築士の集い 中四国ブロック広島大会
『まちづくり活動パネル展』一般参加者募集中！！

建築士会だけでなく、他団体・学生・ＮＰＯ法人など、様々なひとたちが行っているまちづくり活動を一堂に会した『まちづくり活動パネル展』を、2015年6月6日～20日まで「しまなみ交流館」市民ギャラリーで開催します。

大会テーマでもある「伝」に則ったまちづくり活動のパネル展示の参加者を募集しています。申し込みの締め切りは12月20日です。
詳細は「中四国ブロック広島大会2015」のＨＰ
http://den2015.com/category/news/をご覧ください。

指定確認検査機関（中国地方整備局長指定第１号）　登録住宅性能評価機関（中国地方整備局長登録第５号）　登録建築物調査機関（中国地方整備局長登録第１号）
認定低炭素住宅　長期優良住宅　建築確認　住宅瑕疵保険　フラット 35 適合証明　住宅性能評価　住宅省エネラベル

ハウスプラス中国は
迅速、的確な審査で、皆様の建物の
安全、安心をサポートします。



中国エリアをすっぽりカバーしています
Enercia 中国電力グループ
ハウスプラス中国住宅保証株式会社
HOUSE PLUS
http://www.jutakuhosho.com/

広島本店：広島市中区国泰寺町 1-3-32 国泰寺ビル１階
TEL：082-545-5607　FAX：082-545-5608
広島北支店：広島市安佐南区西原 6-9-40-7　TEL：082-832-3310　FAX：082-875-4330
福山支店：福山市西深津町 1-10-1　TEL：084-973-9143　FAX：084-973-9146

第26回 住生活月間中央イベント& 「ひろしま住宅・建築フェスティバル 2014」のご報告

広報委員会 浦山　豊隆

10月11日（土）、12日（日）の2日間、広島産業会館西展示場において、国土交通省が所管する「第26回住生活月間中央イベント」と「ひろしま住宅・建築フェスティバル2014」が同時開催されました。

「ひろしま住宅・建築フェスティバル2014」＝『住まフェス広島』は、国土交通省中国地方整備局、広島県、広島市をはじめとする「広島住生活月間実行委員会」と広島県建築士会広島支部、広島県工務店協会、広島県建築士事務所協会、広島市木材同業組合で構成する、「建築フェスティバル2014実行委員会」が協力し開催したものです。

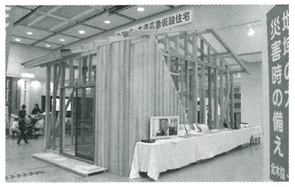
初日には、当会の錦織亮雄相談役が個人表彰を受けられた「住生活月間功労者国土交通大臣表彰」もあり、全国の受賞者15名の代表として、錦織相談役が表彰状を受け取られました。


オープニングセレモニー


総合インフォメーション前

このイベントは「ひろしまの風土・文化・環境に配慮したこれからの住まいづくり」をテーマとして掲げ、さまざまな創意工夫を凝らした住まいづくりを広く一般に知ってもらうとともに、住宅居住環境や住まい方について考える機会を提供し、住意識の向上とゆとりある住生活の実現に資することを目的として行われました。




応急住宅展示


展示ブース

今回のフェスティバル開催に対して関係者の関心も高く、展示の申し込みは約2 週間で当初の計画を上回りました。64もの展示ブースでは建築士の活動や各企業、団体が住まいづくりについて工夫を凝らした展示がありました。台風19号が迫っている天候の中、２日間の来場者数は4,000人を上回りました。（用意していた6,000を超える景品は全て無くなりました。）会場内では、建築士会主催として多くのイベントが各委員会により催されました。

広島支部

●技術研修委員会
「広島市景観計画」についての広島市職員からの説明と「木造住宅の耐震化」セミナー

●企画・総務委員会　「女性建築士による住宅相談会」

●まちづくり委員会
広島市職員（福馬氏）による
相馬市復興支援活動報告会のまちづくりセミナー

●見学委員会
「寄せ植えデモンストレーション」と「フラワーポットづくり」

●スポーツ委員会
カープコーナーでの「ピッチング・バッティングチャレンジ」

●女性部会
「紙ぶるる」という紙を使った手軽なキットによる耐震実験

●青年部会　　作品ＰＲコーナー　パネル展示


女性建築士による住宅相談会


相馬市復興支援活動報告会

本　　部

◆事業委員会
建築家の三分一博志氏による「地球のディテール」と題した建築セミナー

◆広島・尾道・呉３支部合同
建築士会活動ＰＲコーナー　パネル展示

その他には、中央イベントとして高円宮妃殿下によるテープカットセレモニーに始まり、広島市による「建築士・弁護士による住宅相談会」や工務店協会主催による応急住宅展示と被災地応急仮設木造住宅報告会、建築家協会主催のパネル展示、建築士事務所協会主催の「弁護士・建築士による欠陥住宅予防ゼミ」、建築センター協会による「ちびっ子工務店での左官・大工コーナー」や「万能イス製作」、畳協同組合による「ミニ畳づくり」、広島市と事務所協会合同による起震実験車での地震の疑似体験コーナーなどの体験イベントでは好評で行列ができるなど、盛りだくさんの企画が行われました。


工務店協会による「大工コーナー」


起震実験車での地震の疑似体験コーナー

開催までの準備に当たっては、「建築フェスティバル2014 実行委員会」に４団体が集まって会議を行うという貴重な機会の中、いろいろな意見が交わされました。また話し合いを行っていく過程でより良い関係を築くことができ、開催当日を迎えることができました。

このイベントで、建築士会広島支部のメンバーが中心となって活躍し、多くの支援も寄せられました。そして盛況のうちに開催され、多くの成果が得られたことについては、「広島支部が元気を出して、本部全体を活性化させるぞ！」という意気込みを示せたのではないでしょうか。ボランティア精神で集われた関係者の皆様、お疲れ様でした。

事業委員会　特別講演会

事業委員会 浦山　豊隆

「ひろしま住宅・建築フェスティバル2014」の特別セミナーとして、広島県建築士会事業委員会の主催で、地元広島を拠点として瀬戸内海を中心に活動されている建築家である三分一博志氏をお招きし、「地球のディテール」をテーマにご講演いただきました。２日間にわたり行われた特別講演会は台風が近づく中、11 日、12日とも100名前後、計200名のご参加をいただき、地元でご活躍されているということもあって、関心の高さがうかがわれました。



三分一氏は地球と一体となる建築というものを目指してこられ、地球、そして建築に大切なものは「動く素材」ではないかということに着目されました。「動く素材」とは空気や水、太陽などの自然を表現されていて、いくつかの作品を通じて取り組んでこられたもうひとつのテーマでもあると感じられました。冒頭の映像による「動く素材」についての説明がとても印象的でした。

～地球は水が循環し、そのときどきによって変わる「動く素材」となっている。水は地形によって速度は変わり、動く素材となってやがて地球を削る。動く素材はやがて緩やかになっていき、生き物たちと密接に関われるような、ほどよいスピードになってくる。人や植物などの生物はその適した風や水の中に生きている。生物は水の環境によってその姿、形を変えていく。地球全体は、その場所、気候、それによってすべての素材や形が変わる。植物が動く素材によって、姿、形が変わるのならば建築そのものもその場所に合った形をすることが好ましいのではないか。～

三分一氏が直島の住宅プロジェクトに取り組まれた際、歴史ある集落で培われた平面プランの中に、自然の風や太陽の光を生かすための間取りのパターンが繰り返されていることを見い出されました。専門家としてそのような姿勢を持ち、歴史にも環境にも呼応するような建築を増やしていくことが望ましいのではないかと感じました。

三分一氏が建築に用いられている概念のひとつで、クライアントの福武総一郎氏の言葉「在るものを活かし、無いものを創る」というくだりは、奇しくも９月28日に当事業委員会の共催事業として行われたオギュスタン・ベルク氏の講演の中での、「そこにしか無いものを使えば、そこにしかないものができる」というプラトンにおける「chôra コーラ」の一説にも通じていて、今、私たちが再考すべき概念ではないかと感じました。最後に、２日間にわたる講演をいただいた三分一様、関係者の皆様に御礼申し上げます。